

# 地域ニュース

## 災害時

### 旭区の眼科医



再生した古井戸の手押しポンプを操作する柴賢爾院長＝大阪市旭区

取り扱いを検討している。区役所の担当者は「災害は明日にも起こるから分からない。活用できる方法を早く考えたい」としている。柴院長は「(9月の台風15号に伴う)千葉の大停電でも断水でトイレの水に困っていた。そうした事態が起これないようになれば」と話している。

### 岡山で19、20日

岡山県備前市で19、20日に開かれる「第37回備前焼まつり」のPRキャラバンが、大阪市浪速区の産経新聞大阪本社を訪れた。展示販売を中心に、備前焼を愛しむイベント。「備前焼小町」の蔵原由希子さん(23)ら一行は、愛好者ら

旧関谷学校で、備前焼作家らでつくる陶友会の全商品を一割引きで販売。5千円以上の購入で、人間国宝の作品などが当たる抽選会にも参加できる。備前焼でお茶を楽しむセミナーもある。旧関谷学校では、備前焼の器を使った花のアート作品を展示。2会場を結ぶ無料のシャトルバスも運行

## まちかど 人間録

「初めて見たときは、なぜこんなところに大きな石があるのかと思いました。ほかの事務職員や古くからいる教員にも聞いたんですが、それが何なのか分からなかった」

府立槻の木高校(高槻市城内町)の中庭にバラバラに置かれ、忘れられた存在になっていた7個の石が、実は江戸時代の高槻城本丸の石垣に使われたものであることを突き止めた。そして、歴史や地理を学ぶ地歴部員が地域住民と協力して校門そばに展示場をつくり、7個が整然と配置された。「高槻城本丸の石垣資料展示」という看板が設けられ、由来が一目で分かるようになった。

府立槻の木高校事務長 河嶋憲治さん(59)＝箕面市

## 忘れられた石の歴史発掘

府職員だが、平成28年に同校事務長に着任。当初、石が気になってはいたが、だれに聞いても分からないため、しばらくは関心が薄れていた。だが、約1年後、石職人が自作の印としてつけたとみられる刻印が目に入り、再び興味をわいた。「校内に何か記

録はないだろうか」と思索。昨年5月から空いた時間に学校関係の資料が保存された「記念室」に通い、段ボール箱やロッカーを開けて手がかりを探った。1カ月ほどたつた頃、前身の府立島上高校の昭和52年卒業生に関する冊子が出てきた。

冊子には、50年の体育館建て替え工事で高槻城本丸の石垣が出土したことが記されていた。市立埋蔵文化財調査センター職員に尋ねると、同年に約90個の石垣の石が発見されたことが判明。ただ、それだけでは、なぜ中庭に7個が置かれているか分からなかつた。

そこで、市立今城塚古代歴史館の森田克行特別館長に尋ねたところ、7個の石は、当時の教員が教材として使っために市教育委員会が残したことが明らかになった。森田氏は発掘時の市教委職員で、このことをよく覚えていた。四十数年の歳月が流れ、だれもが存在理由を忘れていた石。ねばり強い努力でその由来を解き明かした。

「歴史に興味はなかったのですが、謎解きをする推理小説が好き。そんなことが影響したかもしれない」と笑うが、新設された展示場については「末永く生徒や市民に愛されてほしい」と力説する。昨年9月と今年5月には、地域住民らと協力して校内にそれぞれ約200株の花を植える催しを手がけた。「学校は地域との連携で成り立っている」と思いを語った。

新設された石の展示場の前に立つ河嶋憲治事務長＝高槻市の府立槻の木高校



(張英壽)